

想 OMOIBITO

生徒インタビュー



当時と今の事、教えてもらいました。

03

interview



坂本 華凜さん

私は、子どもたちを支えていきたい。

いつも支えてくれた母に感謝。

震災当時の経験

震災当時は小学1年生で榎葉町の小学校に通ってました。地震が起きたのは、クラスの帰りの会が終わり「さようなら」を言った直後のことです。先生方も初めてのことであせっており、その様子を見ていた私たちもとにかく不安でした。母が迎えに来たのも夕方前で、それまでずっと怖がっていた記憶があります。震災後は避難先がなかなか定まらず、移動・転校を繰り返していました。転校が重なることがストレスで、学校に行きたくないと思う時期もありました。当時、まだ放射線に対する理解が進んでいなかったため、親御さんたちの間で誤解した知識が広まっているのを聞いた時も残念な気持ちになりました。同じ学校の友達同士では、差別や風評被害はなかったのが救いでした。小学生の間はずっと鬱々とした日々が続きましたが、中学へ進学した時に昔からの友達と同じ学校になり、見知った間柄の人たちと過ごせることにすごく安心しました。そんな経験もあって、自分の中で東日本大震災はとてつもない出来事だったのですが、この10年の中で各地で災害が起きていて、1つ1つの震災の記憶が薄れていると思います。今年は10年目という節目もあり少し違いますが、それまでは年々ニュースで取り上げられることも少なくなっているように感じました。その影響もあり、世間の関心が原発や榎葉町から離れていくことが心配です。震災を体験した最後の世代として、その経験や地域を伝えていくことが大事だと思っています。大好きな榎葉町のため、将来この町に住む人たちのために自分にできることをこの学校で見つけていきたいです。

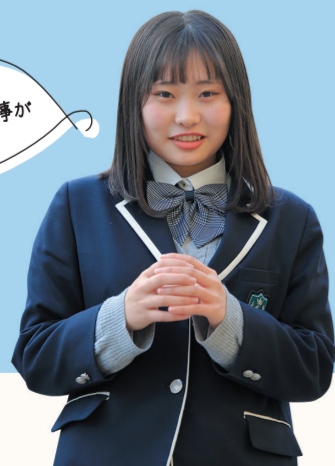
これからの活動

現在探究活動で「広野町の子どもたちが少しでも多く地元に残ってもらうためにはどうするか」をテーマに課題に取り組んでいます。このテーマにしたのは子どもが好きなことと生まれ育ったこの地域が好きなきっかけでしたが、子どもたちと接する機会の中で自分にも変化が起きてきました。ただ好きだけでなく、課題と向き合うことが自分のテーマの解決には必要だと感じるようになりました。私は将来、榎葉町で保育士になりたいと考えています。その時は、子どもたちに榎葉町の良さ、そして震災当時に榎葉町に起きたことを伝えられる人になりたいです。そのためには、子どもたちに分かってもらえるような伝え方、例えば紙芝居や絵本などの工夫が必要になってくると思います。探究活動や校外での活動を通して、子どもたちと触れ合いながらどんな伝え方がいいのか、いろいろ試して知識をつけたいです。



気になる事を聞いてみました!

榎葉町で保育士になる事が夢です!



Q1 学校で避難訓練のようなものはしたことがありますか?

火災の訓練はありましたが、地震の訓練はした記憶がありません。東日本大震災が起こった時は、先生から受けた指示に従って、その場その場で動いていました。

Q2 震災後の生活において励まされたものがあれば教えてください。

辛いことがあっても何も言わないようにしていましたが、母だけは一番に気付いてくれて、いつも助けてくれました。学校に行きたくない気持ちも汲んでくれたり、先生にも事情を伝えてくれたり、いつも支えてくれました。感謝しています。

Q3 避難生活の中で国や行政、もしくは他の人にしてほしいことはありますか?

放射線に対する知識をもっと国民に伝えてほしいかったです。放射線への正しい知識と理解が広まっていれば、当時悩んでいたことのいくつかも解消されていたと思います。

Q4 ふたば未来学園に入学してから行った活動で印象に残っている活動はありますか?

中学3年生の頃に模擬会社を設立して、榎葉町のものを使った商品の開発と日本橋ふくしま館で販売をしました。中でも「ならっふる」というワッフルは売り切れになるくらい好評で、成果として実感できて嬉しかったです。

Q5 広野町の良いところはなんでしょうか?

地域の方から、広野町は様々な伝説が眠る町と聞きました。森鴎外の「山椒大夫」に出てくる奥州日の出の松など、物語につながる伝説が町に眠っているのはとても神秘的だと思います。